

## 表彰

## 日本油化学会フェロー

## 岡崎 三代 氏

(東京医科歯科大学名誉教授、(株)スカイライト・バイオテック技術顧問)



岡崎三代氏は、1967年に東京大学理学部化学科を卒業後、東京医科歯科大学教養部化学教室に助手として就任され、講師、助教授、教授を歴任、2010年3月に定年退官されました。代表的な研究業績としては、故・原一郎先生(日本油化学会第13代会長)のご指導のもと、1980年に世界に先駆けて、ゲルろ過高速液体クロマトグラフィー(HPLC)のリポ蛋白分析法への導入が挙げられます。その後、ハード面(分離・検出システム構築)およびソフト面(解析プログラムの作成)から、精力的に改良を積み重ねられ、リポ蛋白サブクラスの脂質量および粒子数を同時に捉えることができる画期的な分析法を確立し、国内外から多くの注目を集めています。1982年には、「脂質の溶存状態と分析に関する研究」で、第16回日本油化学協会進歩賞を受賞され、同年に、東京大学より理学博士の学位を取得されています。

日本油化学会には、助手就任と同時に入会され、各種の学会活動に参加されるとともに、理事(1996年度から2年間)、財務委員(1988年度から6年間)として学会運営にも尽力されました。さらには、編集委員(1982年度から3年間、主にオイルコーナーをご担当)、抄録担当委員(1989年度から9年間)、用語小委員会委員(1990年から8年間)も歴任され、本学会誌の内容拡充に多大なる貢献をされておられます。

本学会主催の講演会、シンポジウム、セミナー等にも積極的にに関わり、第33回年会では実行委員を、2007年日米ジョイントミーティング(ケベック)では「Metabolic Syndrome-Lipoprotein-Insulin Resistance」部門の企画

と座長を担当されました。また、1980年の油化学講演会「悪玉コレステロールと善玉コレステロール」、1983年の第30回夏季ゼミナール「脂質ハイブリッドの世界」、1994年の第32回油化学入門講座「油化学領域における最新の分析技術」、2009年の市民公開講座「油化学シンポジウム in 佐世保: コレステロール, 中性脂肪と健康〜クオリティー・オブ・ライフ(QOL)の向上をめざして〜」、2012年油化学総会での特別講演「ゲル濾過HPLC法のリポ蛋白研究に果たす役割」等において、リポ蛋白に関する基礎から応用に亘る研究成果を、熱く語り続けてこられました。

上記の活動に加え、アメリカ臨床化学会のリポ蛋白・血管疾患部門誌である「Fats of Life」の編集委員(2005年から5年間)や、日本臨床化学会・リポ蛋白検査専門委員(2006年度から5年間)を務められるとともに、アメリカ臨床化学会主催のInternational Lipoprotein Standardization Forumで講演され、リポ蛋白測定標準化にも尽力されています。

これまで、卒業研究32名、修士課程8名、博士課程1名を研究指導され、国内外の研究者との共同研究を通して、原著論文141件、総説34件、著書17件、学会発表342件など、傑出した業績を残されています。

従ってここに、岡崎氏を平成26年度日本油化学会フェローに推薦させていただきます。今後も、東京医科歯科大学名誉教授、および(株)スカイライト・バイオテックの技術顧問として、リポ蛋白プロファイルの解析技術の普及に向けて、益々活躍されることを期待します。

(産業技術総合研究所 北本 大)